

## 第3回渡良瀬遊水地湿地保全・再生 モニタリング委員会を開催しました

平成23年10月31日(月)10:00～12:00に、栃木県栃木市の藤岡遊水地会館において「第3回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を開催しました。また、委員会開催後に現地視察を行いました。

### ◆モニタリング委員会の概要

今回は委員7人全員にご出席いただきました。

#### 【委員名簿】(五十音順、敬称略)

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 青木 章彦  | 作新学院大学女子短期大学部 教授          |
| 一色 安義  | 渡良瀬遊水池野鳥観察会 会長            |
| 大川 秀雄  | とちぎ昆虫愛好会 会員               |
| 大和田 真澄 | 栃木県植物研究会 会員               |
| 清水 義彦  | 群馬大学大学院 教授                |
| 高松 健比古 | 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人 |
| 守田 優   | 芝浦工業大学 教授                 |

はじめに、事務局より第2回委員会での指摘事項と対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、試験施工エリアにおけるH23年度夏季までのモニタリング結果を報告し、現地の状況や調査結果への質問、今後の調査やデータとりまとめ時の留意点など助言やご指導を頂きました。また、全体施工計画と現在の進捗状況の報告、来年度以降の掘削計画案に関する説明が行われました。

委員会後には、今年度モニタリングを行っている「湿性草地再生実験地」、「環境学習フィールド(1)」、「水位変動型実験地」の現地視察を行いました。

【委員会の様子】



○委員会での意見など

【平成 23 年度モニタリング調査結果(中間報告)について】

- 今回それぞれの実験地で得られた知見をまとめ、次の施工に結びつけていく必要がある。試験施工の前に仮設を立て、モニタリング結果を踏まえて検証する作業を積み重ねていくとよい。
- 今年はヨシ焼きを行っていないため、ヨシ焼きが行われなかった場合の貴重種の生育状況が確認され、ヨシ焼きの効果を確認できる貴重なデータが得られたと思う。
- 地下水位の変化は、近傍の藤岡での雨量データと比較するとともに、降水量以外の要因による変動の有無などについても把握することが望ましい。
- 将来的に、どのような湿地環境が動物(鳥類)の目で見えた場合によいのか等の点からの検討も必要である。

【全体施工計画と現在の進捗状況について】

- 今年度の掘削では、環境学習フィールド(1)の地盤高と地下水位や冠水頻度の関係を、次の掘削形状の検討に活かすとよい。

【来年度以降の掘削計画】

- 来年度以降の掘削形状は、具体的な形状を示してもらい議論する必要がある。

モニタリング調査結果や今後の掘削計画について、様々な助言・意見をいただきました。頂いたご意見、助言を反映させて、今後のモニタリングや掘削形状の検討を行っていきます。

## ◆現地視察

委員会後には、湿性草地再生実験地、環境学習フィールド、施工直後の水位変動型実験地等の現地視察を行いました。

現地視察では、事務局から実験地の目的、形状について説明があり、植生の生育状況や冠水の状況等についての質疑応答がありました。

出水期と比較すると与良川の水位が大幅に減少しているため、実験地の形状を詳細に確認することができました。特に、水位変動型実験地では干出した裸地にシギ・チドリ（トウネン、ヒバリシギ、アオアシシギと思われる）が採餌する姿が見られ、湿地を創出することの効果を確認することができました。

### 【試験施工エリア視察の様子】

#### ◆環境学習フィールド(1)



環境学習フィールド(1)の南側から視察



環境学習フィールド(1)の全景

環境学習フィールド(1)は 5 つの地盤高が設定されており、各地盤高に応じた植生の回復が見られます。

#### ◆水位変動型実験地



与良川右岸側から視察



実験地の全景(右岸側下流から望む)

水位変動型実験地は与良川沿いに設置されています。

右岸側の実験地は、10月28日に掘削工事が完了したばかりです。

◆湿地保全・再生トピックス

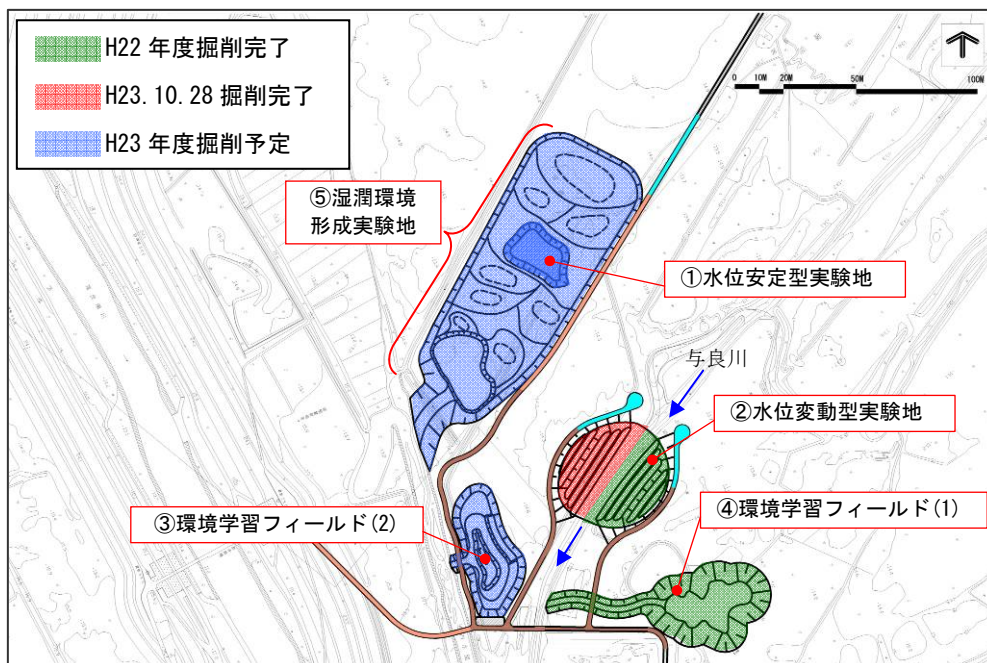
○試験施工エリアの掘削進捗状況（H23 年 10 月末現在）

現在、掘削を進めている試験施工エリアの掘削進捗状況をご報告します。

5 つの実験地のうち、現在、④環境学習フィールド(1)と②水位変動型実験地の掘削が完了しています。

◆試験掘削エリア全体図

（形状、配置は計画段階であり、今後変更となる可能性があります。）



| 実験地           | 実験地の目的                                                                                            | 施工計画           |        |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|--|--|--|
|               |                                                                                                   | 平成22年度         | 平成23年度 |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |
|               |                                                                                                   |                | 4      | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |  |  |  |
| ①水位安定型実験地     | 地下水を水源とする水位の安定した、貧栄養な実験地において、シードバンクや外部からの種子の飛来、鳥等の持ち込んだ種子による水辺植生の成立、開放水面下における水生植物再生状況についてモニタリングする | -              |        |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |
| ②水位変動型実験地     | 洪水の攪乱による影響や種子の定着動態の把握、冠水によるヤナギ類や外来種（セイタカアワダチソウ）の生育抑制状況等についてモニタリングする                               | 与良川左岸側<br>施工済み |        |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |
| ③環境学習フィールド(2) | 環境学習・地域連携の場として、一般市民や子供達が自由な発想で活用できる変化に富んだ地形、自然環境の多様なフィールドを提供する                                    | -              |        |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |
| ④環境学習フィールド(1) |                                                                                                   | 施工済み           |        |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |
| ⑤湿润環境形成型実験地   | 平均地下水位に沿った掘削を行うことにより地下水や雨水により涵養された小さな池沼が点在する湿润環境を再生するとともに、そこに生息する小動物をモニタリングする                     | -              |        |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |  |  |